

米金融政策の転換を背景に、
堅調な推移が続く新興国債券

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

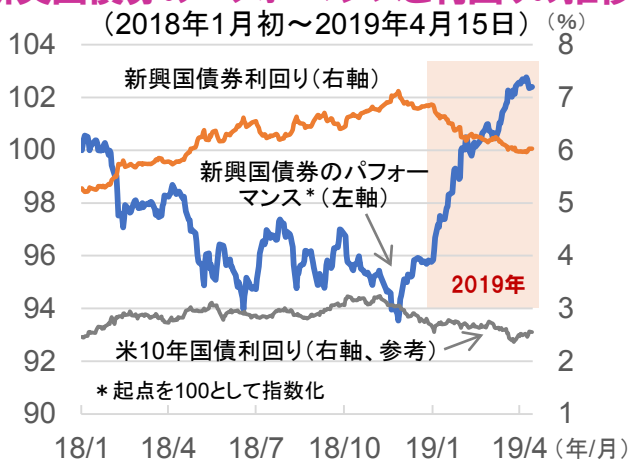
米ドル建て新興国債券は、今年1月以降、堅調な推移となっています。

昨年は、米中貿易摩擦の激化や、トルコおよびアルゼンチンなどの地政学リスクの高まりに伴ない、新興国の景気減速が懸念されたほか、米国の利上げ継続に伴う米金利や米ドルの上昇を背景に、新興国の米ドル建て債務負担の増加懸念が強まりました。こうしたリスクが嫌気されたことで、新興国債券は軟調な推移となりました。しかし、2019年に入り、FRB(米連邦準備制度理事会)が慎重姿勢に転じ、米国の年内利上げが見送られるとの見方が拡がると、米長期金利が低下し、米ドルの上昇が一服したことで、新興国債券は上昇基調となりました。

米ドル建て新興国債券は、基準金利である米国債利回りが上昇する場合や、新興国経済への懸念が高まる場合、売られる傾向にあります。そのため、今後を見通すうえで、米国の金融政策や新興国の経済状況が重要となります。米国の金融政策については、今後、米景気が勢いを取り戻し、追加利上げ観測が高まって米金利が上昇する場合、新興国債券の下落圧力となる可能性があります。しかし、3月のFOMC(米連邦公開市場委員会)では、米景気に対して楽観的な見通しを示しながらも、英国のEU(欧州連合)離脱や米中問題などに絡むリスクがあると、年内は利上げをしない方針が示唆されました。このため、今後、堅調な経済指標が発表されたとしても、利上げに消極的なスタンスはしばらく維持されるとみられます。新興国の経済状況については、一部の新興国では、政治リスクの高まりや、中国の景気減速に伴う輸出の減少などにより、景気の先行きに不透明感がみられます。しかし、中国では、3月の全国人民代表大会(国会に相当)において、積極的な財政・金融政策によって経済を下支えする姿勢が示されており、足元の景況感に改善がみられます。また、IMF(国際通貨基金)の見通しによると、2020年にかけて先進国経済は減速するものの、新興国経済は持ち直し、インフレ率も落ち着いた水準になるとみられています。

こうしたことに加え、新興国債券は、世界的に低金利環境が続くなか、足元の利回りが6%程度と魅力的な水準にあることなどから、引き続き投資家の注目を集めると期待されます。

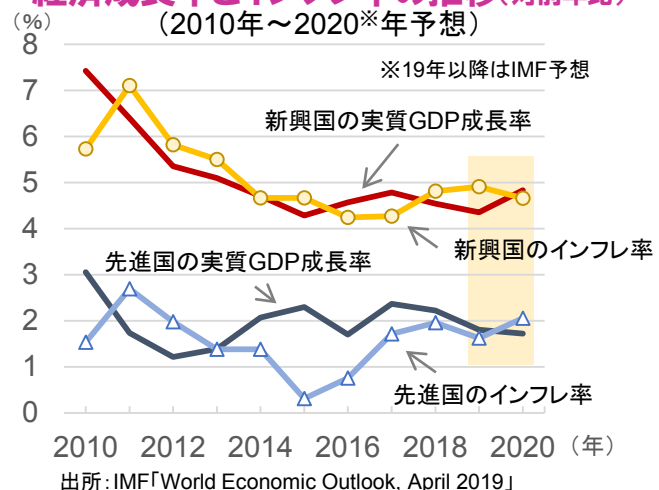
新興国債券のパフォーマンスと利回りの推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

経済成長率とインフレ率の推移(対前年比)



日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。